

北陸地質情報展 体験・学習コーナー —化石のレプリカを作ろう—

利光 誠^{1)・2)}・奥山 康子²⁾・坂野 靖行²⁾・中澤 努²⁾・中島 礼^{2)・3)}

恒例となった地質情報展における体験型イベントとして、今回も化石レプリカ作りを行いました(2001年9月21~23日;写真1)。今回は前回の山陰地質情報展に引き続き、古生代の三葉虫(*Pseudogigantes canadensis*:カナダ産)、中生代のアンモナイト(*Gaudryceras striatum*:北海道産)・恐竜の歯(*Carcharodontosaurus saharicus*:モロッコ産)、新生代のほ乳類の歯(*Desmostylus hesperus*:米国産)の4種に加え、新生代の魚類の歯(サメ: *Carcharodon megalodon*:米国産)の計5種類を準備しました。北陸地方の地質を見ると古生代から中生代、新生代と化石の産出する大方の地質時代が網羅されており、上記の化石の仲間がひとつおりに産出しています。

北陸地質情報展での化石レプリカ作製状況は3日間で三葉虫66個、アンモナイト139個、恐竜の歯61個、ほ乳類(デスモスチルス)の歯35個、魚類(サメ)の歯63個の計364個で、全部で258人の方が参加されました。1999年に名古屋で行われた中部地質情報展につぐ盛況ぶりとなり、うれしい限り



写真1 化石レプリカ作製コーナーの様子(金沢市MROホール)。

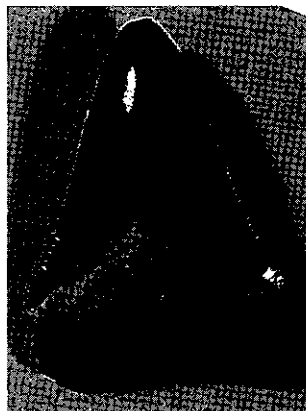


写真2
レプリカの原型となった魚類化石標本(サメの歯: *Carcharodon megalodon*: GSJ F15277)。

です。今年は、3日間とも通ってレプリカ作製にチャレンジしてくれた小学生が何人かいて、彼等の熱意に私たちスタッフも元気づけられました。準備した化石レプリカの内、今年もアンモナイトが一番人気でしたが、三葉虫や恐竜の歯が思ったほどには多くなく、むしろ、サメの歯のレプリカが多く作製されたことが印象的です。アンモナイトの人気はその知名度が背景と思われるますが、サメの歯(写真2)に関してはその見かけの派手さ(細かく鋭い鋸歯状の刻みをもち、立体的なこと)が参加者の心をとらえたようです。

今回の化石レプリカの体験・学習コーナーは著者5名のほか金沢大学の学生8名の協力を得て運営されました。また、当日は地質情報展事務局の方々の献身的な広報活動により多くの参加者を呼び集めることができました。関係の方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

TOSHIMITSU Seiichi, OKUYAMA Yasuko, BANNO Yasuyuki, NAKAZAWA Tsutomu and NAKASHIMA Rei (2002): A special section for a experience of making fossil replicas in the Hokuriku Geologic Exhibition.

<受付: 2001年12月18日>

キーワード: 北陸地質情報展, 化石, レプリカ作製, 体験型イベント

1) 産総研 地質標本館
2) 産総研 地球科学情報研究部門
3) 科学技術特別研究員